PRESS RELEASE

愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

令和５年６月14日
愛　媛　大　学

四国初記録の外来種サシガメを発見
～アトジロサシガメを鬼北町で発見～

愛媛大学大学院農学研究科の吉冨博之准教授は、久万高原町立面河山岳博物館の矢野真志学芸員と安田昂平学芸員と共に、アトジロサシガメ（カメムシ目、サシガメ科）を愛媛県で初めて発見し記録しました。

本種は中国、ベトナムに分布するサシガメの一種で、日本では2014年に記録されて以降、大阪府、奈良県、京都府の生駒山地を中心とする近畿地方で発見される外来種と考えられています。

今回の発見は、一般の方がスマートフォン用アプリ「BIOME※」に投稿した写真がきっかけとなっております。その後、愛媛大学の卒業生で現愛媛県職員の方のサポートもあり、愛媛県鬼北町の複数地点で生息が確認されました。

本研究成果は、2023年６月発行の日本昆虫学会の和文誌「昆蟲ニューシリーズ」26巻２号に掲載される予定です。

※BIOME：最新の AI 技術を使い、カメラで撮影した動物・植物の名前を判定することができるスマートフォン用アプリ。

つきましては、是非ご取材くださいますようお願いいたします。

記

掲載誌　：昆蟲ニューシリーズ、26巻２号（2023）
題　　名：アトジロサシガメ（カメムシ目、サシガメ科）の四国からの記録
著　　者：安田昂平・矢野真志・吉冨博之

オリジナルの論文 PDF は出版後に以下からダウンロードできます。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kontyu/-char/ja

本件に関する問い合わせ先
愛媛大学大学院農学研究科（愛媛大学ミュージアム兼任）
准教授　吉冨　博之
TEL: 089-946-9898
Mail: hymushi@agr.ehime-u.ac.jp

※ 送付資料３枚（本紙を含む）
※論文のコピーは提供可能です。

＜研究成果＞

愛媛大学大学院農学研究科の吉冨博之准教授は、久万高原町立面河山岳博物館の矢野真志学芸員と安田昂平学芸員と共に、アトジロサシガメ *Yolinus albopustulatus* (カメムシ目、サシガメ科)を愛媛県で発見し記録しました。本種は体長 20 ㎜ほどの比較的大きなサシガメの一種で、中国、ベトナムに分布し、日本では外来種と考えられています。2014 年に日本から記録されて以降、大阪府、奈良県、京都府の生駒山地を中心とする近畿地方で発見されています。

＜研究の背景＞

2022 年 9 月に鬼北町在住の菊地昭夫さんにより鬼北町において正体不明のカメムシの写真が撮影されました。写真撮影後にカメムシは飛び去り標本は残っていません。その写真はスマートフォン用アプリ「BIOME」に投稿されました。吉冨准教授は偶然にこの投稿を発見し、そのカメムシがアトジロサシガメであると看破しました。すぐに投稿者の菊池さんに連絡を取り撮影場所が愛媛県鬼北町であることを確認しましたが、詳細な地点や定着しているかどうかは判りませんでした。

アトジロサシガメが鬼北町で確認されたことを受け、実物の標本を採集する必要性と、定着してるかどうかの確認を行う必要があり、久万高原町立面河山岳博物館の矢野真志学芸員と安田昂平学芸員に情報提供し共同調査を依頼しました。安田学芸員は、自身の大学時代の同級生である佐伯駿さんが愛媛県職員として鬼北町で勤務していることから、すぐに佐伯さんに情報提供しました。すると数日のうちに佐伯さんから鬼北町の山間部で 1 個体が採集された連絡が入りました。すぐさま吉冨准教授と矢野学芸員、安田学芸員が確認地点付近に調査に入り、複数地点で複数個体の生息を確認するに至りました。

＜成果内容＞

今回得られた標本を基に四国初記録として報告しました。標本は久万高原町立面河山岳博物館と愛媛大学ミュージアムで保管しており、展示予定です。

＜展望＞

今回の発見には大きく 2 つの興味深い点があります。

1 つは発見場所が鬼北町であったことです。アトジロサシガメは関西地方に定着していることから、関西からの荷物や人の流れに乗って分布を広げると予想され、松山市などの都市近郊で最初に確認される可能性が高いと思われます。しかし、南予の鬼北町の山間部で最初に確認されました。その理由は不明です。昨年秋に愛媛県で確認された外来種ムネアカハラビロカマキリも、大洲市で最初に確認されたことから、松山市などの都市を経由せずに農村部や山間部に外来種が入り込む経路や理由があるのかも知れません。

もう 1 つの興味深い点としては、今回の発見が一般の方が撮影された写真がきっかけとなっており、市民科学的側面が強い点が挙げられます。加えて、愛媛県職員、面河山岳博物館の学芸員、愛媛大学の教員と、多方面の連携によりスムーズに調査・発見することができました。外来種の分布調査は、研究者だけでなく市民との連携が重要であるとの報告があります。今回の発見もまさにその通りだと言えます。また、スマートフォン用アプリ「BIOME」が発見に一役買ったことも特記できます。

本種は侵略的な外来種ではなく、人間や環境に対しての影響はさほど大きくないと思われます。しかし、今後どのように分布を広げていくのか見守ることは重要です。もしかすると、鬼北町で最初に確認されただけで、既に愛媛県の他地域にも定着している可能性も考えられます。

【補足情報】

アトジロサシガメはカメムシの仲間ですが、他の昆虫類に口器を突き刺して体液を吸って生活する捕食者です。そのため、農業害虫にはなりません。しかし鋭い口器を持つことから、不用意に手で捕まえようとすると刺される可能性があるため注意が必要です。

本種によく似た種として、ヨコヅナサシガメが挙げられます。両種とも体長が 20 ㎜程度で、黒色で腹部の側方に白い模様を有しています。アトジロサシガメは腹部の白い模様が後方のみにあり、ヨコヅナサシガメでは腹部の前方から後方にかけて白い模様が広く存在することで容易に区別できます。ヨコヅナサシガメも日本では外来種ですが、古くに侵入定着した種で、愛媛県内では広くどこにでも見られます。両種とも公園や道路脇のサクラの木の幹などにとまっているところが観察されています。

図　愛媛県で発見されたアトジロサシガメ（左）とよく似ているヨコヅナサシガメ（右）
（図は高画質のものを提供できます。また、論文内で使用されている他の写真も提供可能です。）

＜謝辞＞
本発見については、以下の方々にお世話になりました。
菊地昭夫さん（鬼北町在住）
佐伯駿さん（愛媛県職員）